

平安時代末期に四天王寺の西門が極楽浄土の東門に接しているという信仰が確立し、浄土信仰の隆盛とともに、阿弥陀如来のいる極楽浄土に導いてもらおうと、人々は祈りを捧げたのです。

春秋の彼岸の中日（春分の日と秋分の日）には、四天王寺の石鳥居から西を見ると、太陽がちょうど石鳥居の中心を通り、六甲山系と淡路島の中間の水平線に沈みます。

彼岸の中日には西門から鳥居に沈む太陽を拝む『日想観』法要（西方浄土を思っ
て日が没する様子を見詰め、般若心経を唱える法要）が行なわれています。

寺に鳥居があるのは神仏習合の名残。

何度も修復され、現在に至っています。

安芸宮島の厳島神社大鳥居、吉野の金峯山寺銅の鳥居（きんぷせんじかねのとりい）と並んで「日本三大鳥居」にも数えられています。

「大日本佛法最初四天王寺」と書かれた石柱が立っています。

鳥居の扁額をよく見ると、チリトリの形をしてたりします。

「全ての願いをすくいにとって漏らさない」という意味あいなのだそうです。

扁額には「釈迦如来 転法輪処 当極楽土 東門中心」と書いてあります。

（「釈迦が説法を説く所、極楽の東門の中心。」という意味だそうです。）

この石鳥居や西大門は、極楽浄土への「東門」に見立てられ、西の海に沈む夕日を見て極楽を思う聖地でした。

忍性上人とは：

真言律宗の僧。字は良観。鎌倉執権・北条家に重く用いられ、鎌倉極楽寺の開山となりました。

聖徳太子が大阪に四箇院（しかいん）と呼ばれる4軒の福祉施設を設置したことに感銘を受け、1294年に四天王寺の別当となってからはそれらの再興に勤めました。他にも、道路や橋を建設・修築するなど、慈善事業・社会事業を積極的に行ったことで知られています。

※01 鳥居というと神社を連想し、神社の入口に立つものと思われがちですが、日本三大鳥居（日本三鳥居）に数えられる吉野山金峯山寺・銅の鳥居（かねのとりい）、四天王寺・石の鳥居、安芸の宮島・朱丹の大鳥居は、すべて神仏習合時代のもの。金峯山寺、四天王寺は今も「寺の鳥居」として現存しています。

※02 石鳥居は、もともとは木造の鳥居でしたが、1294年（永仁2年）に忍性上人によって石造りの鳥居に改められたものです。このため、石鳥居は重要文化財に指定されています。石鳥居の扁額には「釈迦如来 転法輪処 当極楽土 東門

